HEPATOLOGY NEWS
肝胆膵病態内科学ニュース

第20号　2023年12月　発行

巻頭言

2023年10月7日に突如として始まった、パレスチナ自治区のガザ地区を実効支配するイスラム武装組織ハマスと、イスラエルの大規模衝突。11月現在も戦闘は続いています。昨年の本稿でも触れたロシア・ウクライナ戦争も、終結の兆しが見えません。混沌とした世の中ではありますが、先生方におかれましては日々の臨床の現場でご活躍されているものと拝察いたします。

本年5月8日より新型コロナウイルス感染症は5類に変更になり、これまでの日常生活が戻って来ました。もはや移動制限は無く、主要な学会はほぼ対面で行われています。さて、本年度の当科のイベントとしては8月5日に肝炎デーイベントである「Osaka Liver Festa」を、3年ぶりの対面で行いました。肝臓病を学びなおそう！というテーマのもと、105名の参加者とおおいに盛り上がったのは記憶に新しいところです。また、私は以前よりレイ チイ タントウイ先生をはじめとするベトナムの留学生を多数受け入れており、交流を深めているのですが、10月26日から28日にかけて、打田 佐和子准教授、トウイ准教授、ホアン ハイ特任講師とともに、バクザン省のAnh Quat総合病院およびProvincial People's Committeeを訪問して来ました。打田准教授より肝臓がんの早期発見を目的とした超音波検査によるスクリーニング法や肝がん治療について講演の後、ソナゾイド造影超音波を含む腹部超音波検査手技のデモンストレーションおよびハンズオンセミナーを行いました。今後、新しいコラボレーションが生まれる事が期待されます。

それでは、2023年の肝胆膵内科の医局活動をお楽しみください。末筆となりましたが、先生方のご健勝を祈念いたします。

（河田 則文）

Contents

巻頭言 ・・・・・・・・・・・・・ 1
イベント開催報告 ・・・・・・・・・ 2
学会開催報告 ・・・・・・・・・ 3
着任挨拶 ・・・・・・・・・・・・ 4
スタッフ紹介 ・・・・・・・・・・ 4
カンファレンス ・・・・・・・・・ 5
腹部超音波検査講習会 ・・・・・・ 5
2023年度
Medical Cafe受賞者メッセージ ・・・ 5,6,7
肝胆膵内科トピックス ・・・・・・ 7
大阪公立大学医学部附属病院
肝胆膵内科　外来表 ・・・・・・ 8
医局HPとFacebook,YouTubeのご紹介 8
編集後記 ・・・・・・・・・・・・ 8

イベント開催報告　4年ぶり、対面でのOsaka Liver Festaを開催して

2023年8月5日（土）あべのハルカス会議室25階にて肝疾患に関する市民公開講座「Osaka Liver Festa」を4年ぶりに対面開催いたしました。講演内容は①ウイルス性肝炎の現状と今後（小塚立蔵先生）②脂肪肝について今どうしても知って欲しいこと（藤井英樹先生）③身近に潜む難病～自己免疫性肝炎・原発性胆汁性胆管炎～（武藤芳美先生）④知っておきたい肝がんのお話（打田佐和子先生）と参加者の方にわかりやすくお話しいただきました。ご講演いただいた先生方にはこの場を借りて御礼申し上げます。

今回、参加者105名と半数は大阪市内からの参加でしたが他府県からも6名。（1名はなんと沖縄、めんそーれ）2020年からweb開催が中心で、まだまだコロナ禍以前には人数が及びませんが久しぶりの対面開催にしては良かったと思っています。また、今回は体験コーナーとして以前から好評の肝硬度測定に加え、今回は初の試みとして体組成測定も行いました。肝疾患におけるサルコペニア基準が2016年に策定されましたが、コロナ禍で外出の機会が減ったことで、よりサルコペニア対策の重要性が増しました。測定された方々も日頃から運動し自信のある方、何も運動をしていない方など様々でそれぞれ思い思いに測定されていました。肝胆膵内科病棟も昨年12月より病棟で入院時に全患者にたいして体重測定の一環として看護師にも協力いただき測定を開始いたしました。疾患の特性上、再入院も多く今後入院頻度によるサルコペニアの影響も明らかになってくると思います。

また、肝臓病教室とともに発行していた「なめたら・あ・肝臓NEWS」を、教室がコロナ禍で開催しづらかったこともあり休刊し、2022年2月より「肝ちゃん通信」としてリニューアルいたしました。内容は1）医師からは疾患や治療法の紹介、2）看護師からは病棟での取り組み、3）薬剤師より薬剤の説明、4）管理栄養士より肝疾患にたいする栄養療法などについて記事にしています。また、手軽に自宅で筋トレを！ということで【肝流ジム】というコーナーを使って運動法を紹介しています。日本肝臓学会ホームページ上においても肝臓疾患に基づく身体的・精神的影響を軽減させ、症状、生命予後を改善し、心理社会的ならびに職業的な状況を改善することを目的とした包括的なプログラムである「肝臓リハビリテーション指針」が公開されました。今後、ますます薬物療法以外の運動療法、栄養療法、教育、精神・心理的サポート等を行う重要性が増していくと思われます。

最後に、直接作用型抗ウイルス薬(direct-acting　antiviral：DAA)の登場によりウイルス性肝炎は撲滅しつつありますが、免疫チェックポイント阻害剤を用いた肝がんに対する化学療法や脂肪性肝炎にたいする教育入院の開始など当科として取り組み始めた課題があります。日常の診療や医療の充実はもちろんのこと、今後もOsaka Liver Festaや市民公開講座を通じて市民の方々に情報提供かつ医療を提供できるようにしていきたいと思います。

（元山 宏行）

学会開催報告　第45回日本臨床栄養学会総会

第45回日本臨床栄養学会総会は2023年11月11日（土）から12日（日）まで、本学の特任教授であり、加納総合病院の名誉院長であられる西口修平先生が会長を務め、大阪国際交流センターで開催されました。この学会総会は医師を中心とし、2003年からは管理栄養士を中心とした日本臨床栄養協会総会との大連合大会としてとして続けられています。他の栄養関連学会としては、外科医が中心となり静脈・経腸栄養などを扱う日本臨床栄養代謝学会や、糖尿病の専門家が中心となり内分泌・代謝栄養などを取り扱う日本病態栄養学会がありますが、日本臨床栄養学会は幅広い年齢層に対し、特定の疾患や領域に偏ることなく、医師への栄養教育、そしてそれを支える管理栄養士の養成とシステム構築に重点を置いています。

臨床栄養学は薬物療法などと比べてエビデンスの構築が難しい分野ですが、今回のメインテーマは『エビデンスに基づく臨床栄養学の創造　～〝食〟を制するは喜びに通ず～』であり、各分野における最新の知見を総覧し、未解決の課題を明確にし、エキスパートが集い議論することを目指しました。2020年と2021年の大連合大会はコロナ禍のためWebでの開催でしたが、昨年からは現地開催とオンデマンド配信を組み合わせたハイブリッド形式で開催されています。今回は西口先生の交友関係の広さから、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所の中村祐輔先生、大阪大学免疫学フロンティア研究センターの宮坂昌之先生、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の渡邊恭良先生、衆議院議員の野田聖子氏など多くの著名な方々が登壇し、1,000名を超える医師と管理栄養士が参加し、盛況となりました。

西口先生が会長を、本学生活科学研究科の羽生大記先生が事務局長を務められたこともあり、肝疾患に関する栄養療法のセッションが複数行われましたが、生活習慣病、循環器、呼吸器、消化器、腎疾患など、全ての分野が網羅されたプログラム構成でした。当科からは元山宏行先生がPhase　Angleを用いた慢性肝疾患患者に伴うサルコペニア評価についてシンポジウムと一般口演で、我々と共同研究させていただいている生活科学研究科の松本佳也先生も食事パターンを基にしたNAFLD患者に対する食事・栄養療法について合同シンポジウムと一般口演で発表し、いずれも若手奨励賞を受賞されました。

私自身は、サルコペニア、腸内細菌、微量元素、サプリメント、AIなどが様々な領域で精力的に研究されていることを知り、分野を跨いで議論される機会を通じて多くの知識を得ることができました。最後になりましたが、多くの同門の先生方のご協力のお蔭をもちまして盛会に終えることが出来ましたことを感謝申し上げます。

（榎本 大）

着任挨拶

後期研究医
焦　光裕
（しょう　みつひろ）

はじめまして、焦　光裕と申します。2016年10月に当時の大阪市立大学から十三市民病院へ、その後藤井寺市民病院、市立柏原病院と勤務し、2023年4月より大阪公立大学肝胆膵内科にて勤務させていただきこととなりました。
肝胆膵領域の治療は日々新たな治療法が生み出されるのに加えて、既存の治療法を組み合わせることで新たな治療法を模索されております。いまだ治療の難しい疾患の多い分野ではありますが、その中で患者様の生活および治療の一助となれるよう日々精進を重ねていく所存です。よろしくお願いいたします。

病院講師
池永 寛子
（いけなが ひろこ）

2023年10月より大阪公立大学肝胆膵内科に勤務させて頂くことになりました池永寛子と申します。2019年より大阪公立大学肝胆膵病態内科学の大学院に進学し、基礎研究及び臨床研究ともに幅広く経験を積ませて頂きました。現在は脂質代謝異常に着目した肝線維化基礎研究と、SVR時代のHCC予後研究に取り組んでおり、これらに加えて、バイオインフォマティクス解析技術を用いた癌病態における線維芽細胞の解析や脂質代謝異常に起因する癌促進因子の解明など、取り組みたい研究は尽きません。言うは易し行うは難しで、一つ一つ実直に取り組んでいきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞ宜しくお願い申し上げます。

スタッフ紹介

大学院生
Dang Van Thanh
（ダン ヴァン タン）

Greetings, everyone! I go by the name Dang Van Thanh, and I hail from the vibrant city of Hanoi, Vietnam.
My journey in the field of medicine began at Hanoi Medical University, where I earned my degree as a general practitioner. Following that, I embarked on a three-year residency program specializing in infectious diseases. Subsequently, I had the privilege of working on a clinical trial conducted by the Oxford University Clinical Research Unit. Once that project reached its conclusion, I made the decision to further my education by enrolling in a Master's program in London in 2022.
Throughout my career, I have had the profound experience of witnessing patients grappling with the challenges of liver fibrosis and liver cancer, particularly during Hepatitis B treatment. These experiences have shaped my aspirations, leading me to a strong desire to focus on research aimed at alleviating these conditions. I am incredibly grateful for the opportunity to learn from the accomplished researchers and doctors at Osaka Metropolitan University, specifically within the Hepatology Department. I sincerely look forward to making meaningful contributions to hepatic research in the future.

カンファレンス

肝癌カンファレンス

当科では毎週月曜日と木曜日の科内カンファレンスの後に「肝癌カンファレンス」を行っております。肝癌に対する治療目的で入院予約されている症例全てを対象としており、症例情報を共有するとともに、治療方針を科全体で検討することで各症例に対する最善の治療選択を確認することを目的としています。肝癌の治療は近年目まぐるしく進歩しており、可能な限り最善の治療を患者様に提供するとともに、方針を科全体で共有することで科内の肝癌治療に関するコンセンサスを形成し、治験や臨床研究の対象症例の拾い上げにもつながるのではないかと考えております。今後とも御協力をよろしくお願い申し上げます。

（小田桐 直志）

膵癌カンファレンス

2023年10月より、膵癌カンファレンスを開始しました。毎週火曜日の16時半より、11階西病棟のカンファレンスルームにて開催しています。肝胆膵内科、消化器内科が膵癌症例を持ち寄って相談しています。膵癌の診断には、CT、MRI、腹部超音波検査、超音波内視鏡検査、ERCP、PETなど画像検査と生検や切除標本による病理組織検査の結果を総合的に検討することが必要です。また、効果的な治療には、手術、全身化学療法、放射線治療などの適応を正しく理解した上で、それらを組み合わせた集学的治療が欠かせません。よりよい膵癌診療を患者様に提供できるように、科の垣根をこえて相談やディスカッションができる場にしたいと考えています。ご気軽に症例を提示していただけましたら幸いです。

（打田 佐和子）

2022年度 Medical Cafe 受賞者メッセージ

特別賞

肝胆膵内科の萩原淳司と申します。この度は2022年度「Medical Cafe」において、名誉ある「特別賞」を受賞し、大変光栄に思っております。
これまでの人生を振り返り、医療に関わるようになった動機やその後に感じたことなどを簡単なスライドにまとめて発表させていただきました。賞とは縁のない人生だったので、自分の発表に「特別賞」をいただき感激しております。今後、医療従事者として世の中に少しでも貢献できるように頑張りたいと思っておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

（萩原 淳司）

2022年度 Medical Cafe 受賞者メッセージ

河田賞

この度は『河田賞』という狙っても狙ってもなかなか獲得できない貴重な賞をいただくことができて、非常に嬉しく思っております。当科では年度末にmedical cafeというまとめの会が開催されます。気楽に皆の発表を楽しもうという趣旨で河田先生が命名されました。気楽にとは言うものの、発表内容は非常にレベルが高く、どれも学会発表や論文になるような内容ばかりです。そろそろ準備をしようと思い、昨年のスライドを見返したところ、アップデートできるようなデータがほとんどないことに気付きました。実験が滞っているのは薄々認識していたのですが、現実を突きつけられると少し落ち込みました。今年度は4月に復職し、気づいたら年度末になっておりました。先生方のご支援のおかげでなんとか無事に1年を終えることができたのですが、発表する内容がありません。どうしたものかと日々思案しており、ふとクイズ形式にすることを思い立ちました。そもそもの会の趣旨に従い、聞いている人が楽しめるようなプレゼンをすることを目標として、スライド作りに試行錯誤しました。シンプルなスライドで、留学生も参加できるように発表は英語で、やはり大学のまとめの会ですのでアカデミックな内容を盛り込んで、スライドができたのは発表当日の朝でした。クイズ大会ですので、やはり景品が必要だと思い、景品の内容にもこだわりました。腸内細菌と肝疾患に関する発表内容でしたので、景品は乳酸菌ショコラとY1000にしました。品薄のY1000を3本発見したときには、感動いたしました。私にとっても新しい取り組みでしたので、発表前は緊張し、深く一呼吸してからプレゼンを始めました。噛み噛みの英語でしたが、皆様が盛り上げて下さり、当初の目的は達せられたと思います。今回の取り組みを河田先生にご評価いただき、自信になりました。今後もオリジナリティを意識してプレゼンをしていきたいと思います。最後に、medical cafeの締めの挨拶で河田先生は3つのメッセージを残されました。①仲間を大切に、②しんどい時は周りの力を借りる、③やらない後悔よりやった後悔を選ぶ。③が私のモットーと同じでしたので、心に留めつつ、これからも前向きに頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

（武藤 芳美）

特別賞

It's been a long time to return to on-site meeting after 2-year virtual Medical Café. Face-to-face presentation made our annual lab meeting excited as before COVID-19 pandemic. A lot of fun and interesting reports were shown on the stage instead of in front of computer. This is a good chance to know each other, especially some doctors working at satellite hospitals.
I am very honored to be awarded 「2022年度Medical café 特別賞」. My contribution to our hospital as well as Hepatology department was recognized in both clinical research and department's activities. Chronic liver disease is decreasing now so I focus on liver cancer with regards to DNA methylation in CYGB promotor region.
Thank you so much for all the members of Hepatology department for great support.

(Hoang Hai)

河田賞

博士課程1年の井上喜来々と申します。修士課程の2年間、肝胆膵内科で基礎研究を学ばせていただきました。この度、2022年度 Medical caféにて河田賞という輝かしい賞を頂戴し、誠に光栄に思います。

Medical café にはこの度2回目の参加でした。去年はコロナ渦ということでZoom開催だったため、今年初めて対面開催でのMedical caféに参加しましたが、大変盛況な楽しい会でございました。

Medical caféでは、今までの研究成果及び研究活動などを軸に肝胆膵内科で過ごしたこの2年間について発表させていただきました。修士1年生の時、肝胆膵内科の研究室に出向し、松原三佐子先生はじめ多くの先生方や留学生、秘書さん達に支えられ、初めて研究の楽しさを学びました。そして2年間、河田先生には進捗報告会での助言や学会参加、論文添削など、研究活動を行う上で様々なサポートをして頂きました。また、夜まで研究室で実験していると、度々激励のお言葉をかけていただき、その言葉がいつも研究の励みとなっておりました。肝胆膵内科で過ごした修士課程は私にとって大変濃い2年間で、博士課程に進学するきっかけにもなり、人生の大きなターニングポイントとなりました。引き続き、肝胆膵内科で学んだことを糧に博士課程でも学位取得を目指してこれからも精進していきたいと思います。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（井上 喜来々）

肝胆膵内科トピックス　～胆道癌について～

我々は、免疫チェックポイント阻害剤を含むレジメン（デュルバルマブ/ゲムシタビン/シスプラチン、2022年12月承認）を切除不能胆道癌6例に対して使用しました。この治療は、デュルバの上乗せ効果がじわじわと見られ（いわゆるtale plateau）、2年生存率が従来のおよそ2倍という高い効果が報告されています（対 ゲムシタビン/シスプラチン）。この疾患に対する個別化医療は現在4種類使用でき、線維芽細胞増殖因子受容体（FGFR）阻害剤が2種類を占めます。この2種類のうち、先行承認されたペミガチニブは当教室で2症例に対し使用され、長い生存期間が報告されています（OS中央値=21ヶ月）。さらに、ペミガチニブに耐性変異を示す症例に有効とされる新しいFGFR阻害剤も登場しました（フチバチニブ、2023年6月承認）。同2症例は新薬に変更の見込みです。

個別化医療の問題点は対象となる遺伝子変異を有する症例がなかなか見つからないことです。遺伝子パネル検査をしますが、FGFR変異の頻度は肝内胆管癌のおよそ1割と少ないうえ、腫瘍検体のDNA量が少ないと検査できません。血中DNAでも検査できますがFGFR変異の検出率は低いです。期待されるのが次世代の血液パネル(東大オンコパネルなど)で、変異の検出率が組織パネルの8割に迫るとのこと。

個別化医療の充実により、この疾患の制圧に近づくことが期待されます。

（川村 悦史）

大阪公立大学医学部附属病院　肝胆膵内科　外来表

	月	火	水	木	金
５診	榎本 大	藤井 英樹	河田 則文	榎本 大	萩原 淳司
６診	打田佐和子	小塚 立蔵	打田佐和子	藤井 英樹	元山 宏行
７診	川村 悦史	小田桐直志	川村 悦史	小塚 立蔵	武藤 芳美
８診	小谷 晃平	池永 寛子	小谷 晃平	小田桐直志	焦 光裕

大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科　☎(06)6645-2121(代表)
初診受付：午前９時～午前１０時３０分　休診日：土日祝日、年末年始
肝胆膵内科では紹介状持参の上、初診受付時間内にお越しいただけたら当日、診察いたします。

大阪公立大学医学部附属病院 MedCity21　☎(06)6624-1324
【完全予約制】電話受付時間：月～金　午前９時～午後４時３０分

医局 HPとFacebook、YouTube のご紹介

肝胆膵内科ではFacebook, X(旧Twitter), LINEを用いた広報活動を積極的に行っております。
お気軽にご参照いただければ幸いです。
また、打田先生が中心となり、腹部超音波の動画をまとめてYouTubeチャンネルに公開しておりますので、合わせてぜひご覧ください！先生方のご施設の若手の先生にもご紹介下さいませ。

医局 HP
http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/

医局の LINE ID
@601nelbn

医局 Facebook
https://www.facebook.com/omum.hepatology

医局 X（旧 Twitter）
https://twitter.com/kantansuinaika

YouTube チャンネル
OMUH-Hepatology
https://www.youtube.com/channel/UC90ujP6ooqJ4DlPplz6KEnw

編集後記

最後まで読んで頂き、誠に有難うございました。近年、内科離れや肝臓内科離れが日本中で進んでいるようです。しかし、必ず潮目が変わる時が来ると信じています。引き続き肝胆膵内科をご支援頂きますよう、宜しくお願い致します。

（藤井 英樹）

HEPATOLOGY NEWS
肝胆膵病態内科学ニュース
第20号　2023年12月　発行

発 行 者 ／大阪公立大学大学院医学研究科
肝胆膵病態内科学
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
TEL：06-6645-3905 FAX：06-6635-0915
編集委員／藤井 英樹